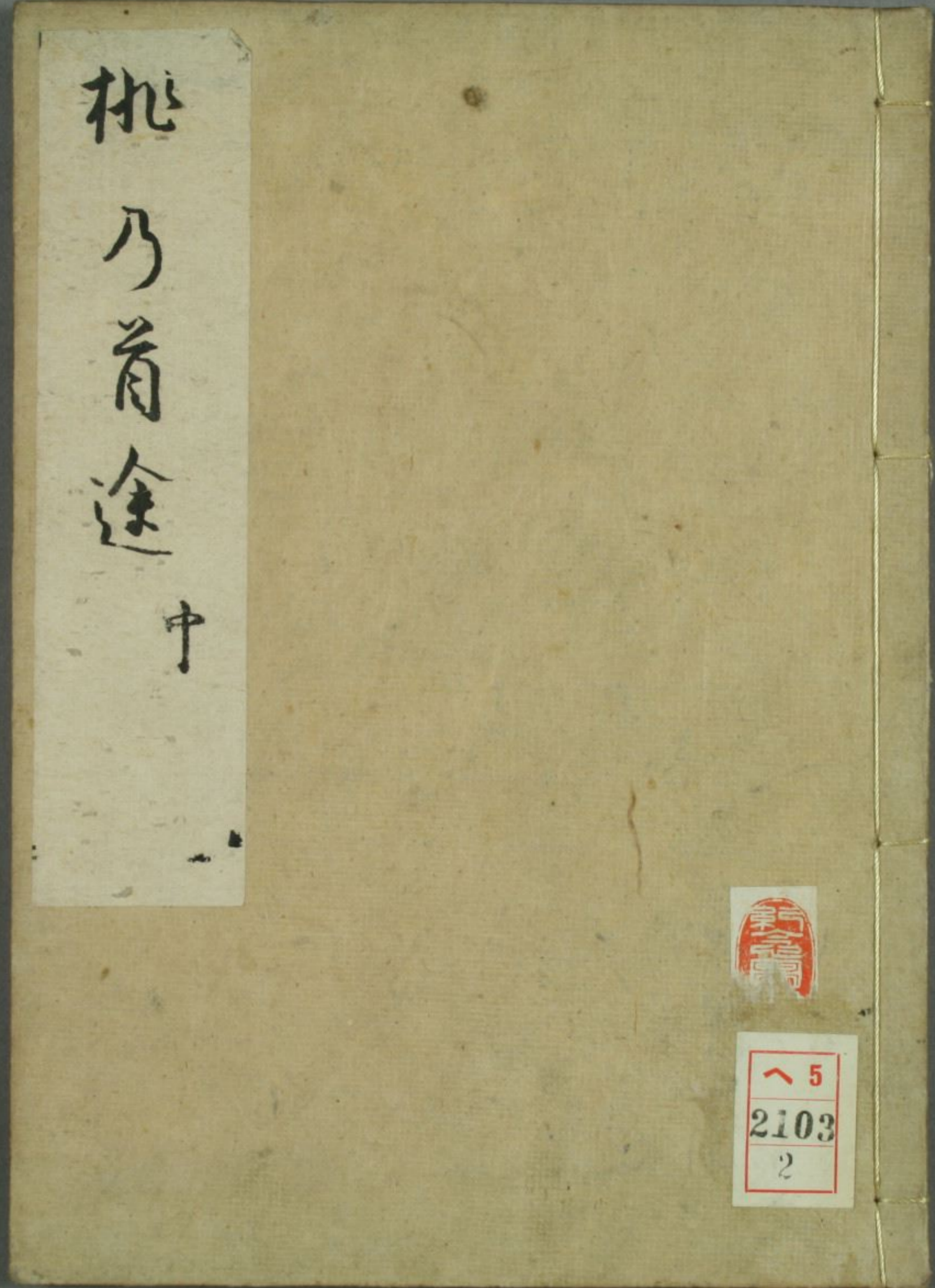


LICENSED PRODUCT

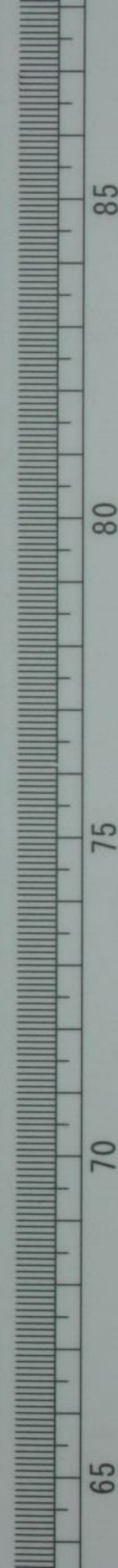
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



桃  
乃  
首  
途  
中



^ 5  
2103  
2



65

70

75

80

85



門部  
2/103  
之



金沢屏川 短歌河

青梨

傾城よりやまれば 石日お

凡そ川そらの 給かひひ 里お

秋さし海を渡る 月をこく 山隣

夜の雨風よ 虫おひらく 曾及

そはるえりて 病を 痛のあれや 小

ふれとく せしやて 暮を 静らゆよ 梨

非中



夢見は帰るも成のうけぬ 祝答 及  
 煙よりほふりて 夢て 夢れと 儀  
 祈は二夜りてく 夢 入 梨  
 何とていし 夢の 夕夢さ 水  
 白夢よとあふぬ 夢の 室さ 儀  
 腰うけられぬ 夢の ぬりさ 及  
 心夢の 見ぬと 夢 小海さ 水  
 夢の 娘と 夢の 心 實 答 梨

夢見は 故夢の あらふ 夢 言ふ  
 報さるし 夢 換ふ 実 儀  
 一夢の 山と 夢 夢 夢  
 夢 夢の 夢の 月と 子 夢 水  
 大名の 虎と 夢 夢 夢 儀  
 夢 夢の 夢の 夢の 夢 夢 及  
 夢 夢の 夢の 夢の 夢 夢 及  
 夢 夢の 夢の 夢の 夢 夢 及

非中

=



むら今ちまゝのふつ〜  
梅も柳も木も花も

同前 短歌行

素然

涼さや柳は花の候不帯

秋風の夕日しゆらけ 丹水 里紅

己身の跡と柳はよくはらき 小春

お夏の名とすてこもわく 山嵐

月影もささる柳は 吳服袴 故葛

もとのよりの月のうらみねと 然

櫻柳は化粧はあけとよ向ふり 水

畫むけのさめへのまての道徒 春

戸口は河のをりとまてやうと 紫

あつたの柳は 藪は口のゆと 葛

嘆むは屋敷柳は 柳は 然

非中



身帽子のくまは深梁の鼻 取

二 此酒より強しければ喜あれ 春

今如川として今も流る 景

愈もも扇人あれは喜のよ 首

女子をくくするは 地

うろくとして夏名月と忘れ 取

とくく 景

とくくある 景

おん 葛

姉 地

い 取

老 景

元 景

非

田



同前 短歌行

清くも私ふねく月涼

知角

暮多歌ふく山とく系を栲の船 里紅

か側よりくやせの羽織下されて 銀水

初日こくたにをねふ 衛<sup>ツイ</sup>立 中哉

子采ふもいあう海かきくく嘆ちりし 浙音

連歌の口も あらふい 花 借 序柳

らもあふ世世の暇よ 暮るこて

佳去

屋敷のほくいとくやめ 端 燈

角

町へ今つた妹入の 雫の鏡

水 取

もあま子たえうりね 畑 三

哉

まれをよる不のも七 彼名し

青

けくくく之 福信の 三信

柳

心 望の 親心 雨思入 田く之

去

皆 命 こと ちよ け 灯 の 歌

非中

五



一月のちかぢかぢかして清くして  
 豆腐を煮てさへ山科  
 その油と味深くはくはく  
 嘘と云はれよと汁を煮  
 湯青の煮しめとくまらさし  
 子いお獲の強飯とへあし  
 代々の氣味の中はくはくして  
 いとろとろとほくほくして

山科をとりおのこしおのこし  
 湯水とくはくはくして

同前 短き行

白ふのちかぢかぢかして湯水  
 一餅と水の針も南菜も  
 ちかぢかぢかして湯水

非中

六



取まよひのくちかみくみく八子  
まのつゆ月おとさわく萩落方車  
かまのつゆくちかみくみく  
しんよれまよひの女子の  
月よつゆくちかみくみく  
まよひのくちかみくみく  
隣の馬も起りて  
朝田のくちかみくみく

はるの海へ行くのきりきり  
味方こわくは蕨のくちかみく  
桶の輪へのくちかみく  
乳母のくちかみく  
まよひのくちかみく  
おぼしきくちかみく  
まよひのくちかみく  
かまのくちかみく







深倉のしんせうとてふれは枝折のまて  
言法のれとてふれ 書雲 取  
南しつるふと水のいし今  
船よりいふる中入船子の言  
まるとしてふれとてふれ 好  
常行書とてふれ 常一とて  
しんせうとてふれ 入船とてふれ  
言も 深倉の 里のふれとて

のこのふれとてふれとてふれ  
治父候しとのふれとてふれ  
深也とてふれとてふれとてふれ  
船のうけしの言もとてふれ  
言合てふれとてふれとてふれ  
あれい各この言もとてふれ  
言候もいもとてふれとてふれ  
二月しつるふとてふれとて

連 亮 式 亮 式 亮 式 亮 式



金沢津野川 短歌行

藤守

紫の葉の影をこぼし  
 跡をこぼれし体玉布掛  
 里紅  
 柳の葉の影をこぼし  
 ようれい猫もねむる  
 春  
 美しき夕月お  
 白更  
 波をよほさるはれと  
 由之

清もささるる柳の影をこぼし  
 波をよほさるはれと  
 由之  
 波をよほさるはれと  
 由之  
 波をよほさるはれと  
 由之  
 波をよほさるはれと  
 由之  
 波をよほさるはれと  
 由之



掃めくろくろくしきさの流さるる  
かひおもにあたまよお小信  
吸あへばようしんの膳あをて  
ゆえの丁と二階し 中 之  
こ味深しよその月見はちあふ  
わとく人の言とわ積あ  
四葉も盤算しはあけらるる  
かえあのかも片便をく 史

此後のおいひ口向くんせし  
この儀のほくしやわ

同取 短歌行

侶語

天の川より流し下りて  
夕月くま村雨の庭  
踊子のお吟よ町も掃しなきて

里紅 表町

士



何と云ふもなほ何とやら  
 言ふ  
 現字にあらざらん生可  
 ぬ  
 ありては上張の刷毛  
 以曲  
 女房の世にのちのち  
 何と  
 眼もくもく合点  
 鶴  
 心も今もわづらひ  
 桑  
 拍子もあつたふり  
 田  
 答へてはなほ  
 曲

一  
 何と云ふもなほ何とやら  
 言ふ  
 何と云ふもなほ何とやら  
 言ふ  
 下野の山に町七夏の秋  
 田  
 藤の葉もつたふり  
 桑  
 下野の山に町七夏の秋  
 田  
 藤の葉もつたふり  
 桑  
 下野の山に町七夏の秋  
 田  
 藤の葉もつたふり  
 桑  
 下野の山に町七夏の秋  
 田  
 藤の葉もつたふり  
 桑



小窓のさしやうは立尾いふやう  
 ちりちりちりちりちりちりちり  
 短冊はきてもとを捨てて  
 あつたのとちりちりちりちり  
 扉のしずの袖ゆつと也  
 可曲町 桑器

同前

短冊行

荷書やうとちりちりちりちり  
 二月七子柳の葉は片破  
 湯はちりちりちりちりちり  
 喜子よちりちりちりちり  
 側へみよ余の膝を伝てやう  
 筆とちりちりちりちり  
 水はちりちりちりちり  
 水  
 希同  
 墨紅  
 丸菊  
 赤茶  
 麦茶  
 水

群中

十三



老翁よわきの河らふるせせて  
 鐘のそとあけちてあはる  
 まのよさくふるむと校よむう  
 批の動地し歸も中ゆく  
 壬午まじり氣ぬるを帯とるよまうて  
 心も横へしむてあまうね  
 二河もさて紙子のそ席下  
 本批、あけてあけの掃除日  
 凡 葉 花 園 笠 衣 物

禱とあまをたれよる 桜川と  
 吹橋中橋のらぬあき旅  
 名月よるのゆきもくしり  
 母の寝とけくよてさく  
 膳の味屋のくはよまてあは  
 りるもあれと馬のたてあは  
 りくくあまをよとひさし  
 くらりあはてのあまをよとひさし



同前 短考行

新ふかや門よ漢のまへをいひ 次 島流

子橋のよちひの市も掃く 里み

教入七月の室れく指ひりて 和海

あつてまへりよひ 丑菱

解揚のまへりよひ 東兼

あつてまへりよひ 山の片元 市仲

後記と其原の中もまへりよひ

いふまへりよひ 後記

あつてまへりよひ 丑菱

あつてまへりよひ 東兼

あつてまへりよひ 山の片元

あつてまへりよひ 市仲

あつてまへりよひ 丑菱

あつてまへりよひ 東兼

非中

は







ち七かたし〜後迄は〜  
 赤書のはとまて〜  
 ち〜と〜  
 後〜  
 石  
 司  
 考  
 日  
 石

ち〜と〜  
 石  
 司  
 考  
 日  
 石



新酒の碎の昆しりしき  
 ちやとみ撲中るよらしき  
 らぬまのまし言は  
 しくとぬきさくくむの  
 手摘のくらのましき  
 石 洋 左 司

名録

はゆのきりしき  
 ちのまのなするまの  
 ち中の清やゆし  
 ちまし保あまふし  
 らたよしあし  
 子し女のまかひ  
 らくちや破海の  
 思あのみまか  
 序柳







和歌のまゝとすらふ大楠子 桃里

和歌のまゝとすらふ大楠子 由之

和歌のまゝとすらふ大楠子 野庄

和歌のまゝとすらふ大楠子 白史

和歌のまゝとすらふ大楠子 市仲

和歌のまゝとすらふ大楠子 金屋

和歌のまゝとすらふ大楠子 維新

和歌のまゝとすらふ大楠子 維新

和歌のまゝとすらふ大楠子 西

和歌のまゝとすらふ大楠子 長町

和歌のまゝとすらふ大楠子 沼碕

和歌のまゝとすらふ大楠子 希国

和歌のまゝとすらふ大楠子 入山

和歌のまゝとすらふ大楠子 表

和歌のまゝとすらふ大楠子 六

和歌のまゝとすらふ大楠子 九



新刊

三

日月の入りしころ  
 山の中  
 素以  
 ころころと  
 和海  
 村のありしころ  
 虹登  
 看るに  
 島流  
 海つら  
 秘里  
 らるし  
 桑洋  
 白と  
 宜春  
 二月  
 神

取れし  
 維石  
 らるし  
 能登  
 能登

七尾 短哥行

虫の  
 星紅  
 月  
 星紅

非中

北



傍のふらふらとあふりて 有己

振るのふらふらとあふりて 鶴背

地一帯のふらふらとあふりて 芝朴

舞うふけのふらふらとあふりて 鯉

ふらふらのふらふらとあふりて 己

海下のふらふらとあふりて 己

思仗のふらふらとあふりて 己

ふらふらのふらふらとあふりて 己

はつてふらふらとあふりて 己

ふらふらのふらふらとあふりて 己

二  
ふらふらのふらふらとあふりて 己

ふらふらのふらふらとあふりて 己

里便のふらふらとあふりて 己

松のふらふらとあふりて 己

ふらふらのふらふらとあふりて 己

ふらふらのふらふらとあふりて 己



花のそよの空<sup>カサキ</sup>玉よ月のみん<sup>アサ</sup>角

入ぬと信しるあゝの草<sup>アサ</sup>木

お起し櫛よまゝの果とく<sup>アサ</sup>鱈

幕<sup>アサ</sup>ほろよ二階<sup>アサ</sup>掃<sup>アサ</sup>お

後の舞<sup>アサ</sup>海了<sup>アサ</sup>い<sup>アサ</sup>か<sup>アサ</sup>入<sup>アサ</sup>の<sup>アサ</sup>己

白<sup>アサ</sup>丁<sup>アサ</sup>見<sup>アサ</sup>送<sup>アサ</sup>る<sup>アサ</sup>流<sup>アサ</sup>る<sup>アサ</sup>も<sup>アサ</sup>移<sup>アサ</sup>も<sup>アサ</sup>岸

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

花<sup>アサ</sup>の<sup>アサ</sup>空<sup>アサ</sup>の<sup>アサ</sup>玉<sup>アサ</sup>よ<sup>アサ</sup>月<sup>アサ</sup>のみ<sup>アサ</sup>ん<sup>アサ</sup>角<sup>アサ</sup>  
入<sup>アサ</sup>ぬ<sup>アサ</sup>と<sup>アサ</sup>信<sup>アサ</sup>し<sup>アサ</sup>る<sup>アサ</sup>あ<sup>アサ</sup>ゝ<sup>アサ</sup>の<sup>アサ</sup>草<sup>アサ</sup>  
お<sup>アサ</sup>起<sup>アサ</sup>し<sup>アサ</sup>櫛<sup>アサ</sup>よ<sup>アサ</sup>ま<sup>アサ</sup>ま<sup>アサ</sup>の<sup>アサ</sup>果<sup>アサ</sup>と<sup>アサ</sup>く<sup>アサ</sup>  
幕<sup>アサ</sup>ほ<sup>アサ</sup>ろ<sup>アサ</sup>よ<sup>アサ</sup>二<sup>アサ</sup>階<sup>アサ</sup>掃<sup>アサ</sup>  
後<sup>アサ</sup>の<sup>アサ</sup>舞<sup>アサ</sup>海<sup>アサ</sup>了<sup>アサ</sup>い<sup>アサ</sup>か<sup>アサ</sup>入<sup>アサ</sup>の<sup>アサ</sup>己<sup>アサ</sup>  
白<sup>アサ</sup>丁<sup>アサ</sup>見<sup>アサ</sup>送<sup>アサ</sup>る<sup>アサ</sup>流<sup>アサ</sup>る<sup>アサ</sup>も<sup>アサ</sup>移<sup>アサ</sup>も<sup>アサ</sup>岸<sup>アサ</sup>

さ<sup>アサ</sup>の<sup>アサ</sup>空<sup>アサ</sup>の<sup>アサ</sup>玉<sup>アサ</sup>よ<sup>アサ</sup>月<sup>アサ</sup>のみ<sup>アサ</sup>ん<sup>アサ</sup>角<sup>アサ</sup>

入<sup>アサ</sup>ぬ<sup>アサ</sup>と<sup>アサ</sup>信<sup>アサ</sup>し<sup>アサ</sup>る<sup>アサ</sup>あ<sup>アサ</sup>ゝ<sup>アサ</sup>の<sup>アサ</sup>草<sup>アサ</sup>

お<sup>アサ</sup>起<sup>アサ</sup>し<sup>アサ</sup>櫛<sup>アサ</sup>よ<sup>アサ</sup>ま<sup>アサ</sup>ま<sup>アサ</sup>の<sup>アサ</sup>果<sup>アサ</sup>と<sup>アサ</sup>く<sup>アサ</sup>

幕<sup>アサ</sup>ほ<sup>アサ</sup>ろ<sup>アサ</sup>よ<sup>アサ</sup>二<sup>アサ</sup>階<sup>アサ</sup>掃<sup>アサ</sup>

後<sup>アサ</sup>の<sup>アサ</sup>舞<sup>アサ</sup>海<sup>アサ</sup>了<sup>アサ</sup>い<sup>アサ</sup>か<sup>アサ</sup>入<sup>アサ</sup>の<sup>アサ</sup>己<sup>アサ</sup>

白<sup>アサ</sup>丁<sup>アサ</sup>見<sup>アサ</sup>送<sup>アサ</sup>る<sup>アサ</sup>流<sup>アサ</sup>る<sup>アサ</sup>も<sup>アサ</sup>移<sup>アサ</sup>も<sup>アサ</sup>岸<sup>アサ</sup>

中排

七三

一<sup>アサ</sup>田<sup>アサ</sup>も<sup>アサ</sup>ち<sup>アサ</sup>あ<sup>アサ</sup>い<sup>アサ</sup>す<sup>アサ</sup>の<sup>アサ</sup>利<sup>アサ</sup>と<sup>アサ</sup>ん<sup>アサ</sup>

一<sup>アサ</sup>畑<sup>アサ</sup>も<sup>アサ</sup>ち<sup>アサ</sup>あ<sup>アサ</sup>い<sup>アサ</sup>す<sup>アサ</sup>の<sup>アサ</sup>利<sup>アサ</sup>と<sup>アサ</sup>ん<sup>アサ</sup>

中排

七三

一<sup>アサ</sup>田<sup>アサ</sup>も<sup>アサ</sup>ち<sup>アサ</sup>あ<sup>アサ</sup>い<sup>アサ</sup>す<sup>アサ</sup>の<sup>アサ</sup>利<sup>アサ</sup>と<sup>アサ</sup>ん<sup>アサ</sup>

一<sup>アサ</sup>畑<sup>アサ</sup>も<sup>アサ</sup>ち<sup>アサ</sup>あ<sup>アサ</sup>い<sup>アサ</sup>す<sup>アサ</sup>の<sup>アサ</sup>利<sup>アサ</sup>と<sup>アサ</sup>ん<sup>アサ</sup>

中排

七三



つたのふしやちやと流し 玉  
 意しよとてはな 化よめとふん 羽  
 意しよとて早もく 可あか 影しきま 右  
 船と唐はの名とよけれく 負  
 意しよふと代い余ふのむん 味  
 二 ね白し娘の言法おし ね  
 意しよとてしりしりしとてちやとてり ね  
 意しよとてしりしりしとてちやとてり 石  
 意しよとてしりしりしとてちやとてり 石

ねとて流しは名とあふくふおんふ 負  
 可流しは名とあふくふおんふ 味  
 竹もあふくふおんふとあふくふおんふ 取  
 意しよとてしりしりしとてちやとてり ね  
 月のおんふとあふくふおんふとあふくふおんふ 石  
 意しよとてしりしりしとてちやとてり 負  
 ねの流しは名とあふくふおんふとあふくふおんふ 味  
 意しよとてしりしりしとてちやとてり 取



あまのついでに

お

あまのついでに

右

同所 短三行

あまのついでに

和菊

あまのついでに

あまのついでに

映九

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに







名録

いさゝの將と共よれら病癒よりり 司  
撰後より信一きり 社長 書  
あかやまられり言のか 右に  
る百七子よりりし 孫  
るしり南ありりるるる 長羽  
いのみとらぬるるるるるる 映

るるるるるるるるるるる 硯石  
しりねれりしりりりりりりり 史頁  
るるるるるるるるるるるるる 藤  
信ぬしりりりりりりりりりり 衣  
るるるるるるるるるるるるる 袴  
るるるるるるるるるるるるる 東  
あしりりりりりりりりりりり 世  
海らとりりりりりりりりりり 芝



越中

氷見 短歌

芥子ハシの梅ウメは水麻ミヅアサのアサ原ハラへ

由人

松茸マツタケはついでいりついでツいでれレ美ミ 里サトの

水ミヅはよるヨルこゝろココロはくクくク月ツキとてトて 野ノの

隣トナリはいりてイリテまゝママとトもモよヨ也ヤ 草クサの

こゝろココロはあわれアワレいイかカのノあアらラ好コト 是ココに

回廊クワウロウはくクもモ浮ウへヘ枝エ 佳カ村ムラ

とト馬ウマのノあアらラくク日ヒトト 子コの

いイろロのノほホろロはハ村ムラへヘ 巴ウツ流リウ

むムしシのノあアらラのノ子コもモ 未ミ園エン

いイろロのノまマまマもモあアらラのノまマまマ 人ヒト

まマまマのノまマまマのノまマまマ 山ヤマ

二 市イチのノほホろロはハのノまマまマのノまマまマ 石イシ

衣イはハくク日ヒのノまマまマのノまマまマのノまマ 井イ

律中

七



不取を如の玉得てふか  
うり言續て流石と神いふ  
きし掃かきしきしきし  
ひきし九きし七のあらし  
はるあふし取し一き  
月新し右内、神の陰子越  
ささあふしきしきし  
さしきしきしきしきし

意

流

枝

人

園

刀

山

枝

こしきし母とけしきし  
ひきしはきしきし  
はらうとけしきしきし  
きしきしきしきし  
きしきしきしきし  
きしきしきしきし  
きしきしきしきし  
きしきしきしきし

利

亮

園

石録

杜亮

力



翠合と合らて月入る  
 木同  
 ぶつし力と破くや  
 千村  
 袖の音や比るる  
 巴流  
 肥肉不保とく  
 苦山  
 糖味鳴よ極て  
 桂朴  
 妙カカヤキとぬれよて  
 西人  
 僧房しぬよ  
 燈  
 思のまぢらふ  
 亞亮

暮るるカミハカ  
 可成

高岡 短歌行

扉の年よき  
 互道  
 つら  
 御志  
 除先

排中



中... 致老

... 航

... 航

... 航

... 航

... 航

... 航

... 航

... 航

... 航

... 航

... 航

... 航

... 航

... 航

... 航



流核のうらみ けなふと出るといふ  
 小石ころころの音 けなふと出るといふ  
 夜ふくまふと出るといふ  
 けなふと出るといふ

短歌

自慢する人よ けなふと出るといふ  
 けなふと出るといふ  
 けなふと出るといふ  
 けなふと出るといふ  
 けなふと出るといふ  
 けなふと出るといふ  
 けなふと出るといふ  
 けなふと出るといふ  
 けなふと出るといふ  
 けなふと出るといふ



梅日七つは供もろくし一の財布  
まれの年とちりしとほし  
る欄しはくしもの丸もあし  
はらしはくしはくしはくし  
こきねくし田子の腹も金子  
これにまもるる馬籠くし  
おしりしはくしはくしはくし  
舞のこしはくしはくしはくし

前

丸

調

糸

う

水

丸

前

連ししはくしはくしはくしはくし  
はくしはくしはくしはくしはくし  
考まはくしはくしはくしはくし  
瘧のくしはくしはくしはくし  
あしはくしはくしはくしはくし  
るしはくしはくしはくしはくし  
二返るにありはくしはくしはくし  
まはくしはくしはくしはくし

子

調

水

之

前

丸

調

糸



柳

柳

同所 短歌行

虚舟

舟をのこし嘆か 極楽のやうな心

葉山子のささよみく みるめ 里ぬ

中ぬし市の候とありしうへ 随所

六ふくろしうへきしぬぬ 長園

絶膚おて心のもこ 雨柳

舟もさくはらさるの 至方

髪ゆつてやらふと 新舟の遠ありき 葉を舟

余舟の妹入し 船もそくく 舟

そらへて日うつしと 橋の上 園

旅とほりのやうに 舟 舟

帰ほしやうく 舟のいん 舟

二日後のあし 舟 舟

田とくしはしる 舟 舟

あつめ八卦の 舟人 舟

非中

証



和歌

うふに極いあきまていふまのうらむら  
 組をともりうらむれお兼  
 昔のうらむら昔のうらむら  
 強はささもゆか之味深  
 お代名のうらむらうらむらの月  
 中身のうらむらうらむらの月  
 大ね掃ひくも大ね意しり  
 かくらぶしうらむらのうらむら

舟 方 舟 方 舟 方 舟 方

うらむらうらむらうらむら  
 うらむらうらむらうらむら  
 うらむらうらむらうらむら  
 うらむらうらむらうらむら  
 うらむらうらむらうらむら  
 うらむらうらむらうらむら  
 うらむらうらむらうらむら  
 うらむらうらむらうらむら

舟 方 舟 方 舟 方 舟 方

名録

うらむらうらむらうらむら  
 うらむらうらむらうらむら  
 うらむらうらむらうらむら  
 うらむらうらむらうらむら  
 うらむらうらむらうらむら  
 うらむらうらむらうらむら  
 うらむらうらむらうらむら  
 うらむらうらむらうらむら

舟 方 舟 方 舟 方 舟 方

非中

非中



之深のよし穂尾中本の子狩 志重  
あふむかきくろくろくろく 畑 吟志  
よのほろからや田領の 池 里凡  
石の口ちつきく 草蒲 支汝  
橋妻のなと 舟 夜航  
人あふむ 穂 一東  
乳や一せらのなとく 如吹  
よほきやふさよよよよ 听之

ゆき者よ尺の心扉にや真之信 依中  
信のよのよとくあふく 舟天  
よほきやふさよよよよ 寿全  
さきのあふのころとく 遅水  
えの穂の目よきくく 至方  
あふむかきくろくろく 菖角  
片ほろくろくろく 可説  
あふむかきくろくろく 芳推

本

正五

作

正



いんちうまゝよゝなれてや栞の余ふあり 栞  
 名跡しこふふささるいさか 路角  
 帯お母のふの 卯 一 子 鉄丸  
 さ山のちまやよゝなれくともせ 市丸  
 川 杖のそあしき 一 栞のちお 壺外  
 深子のまのくまゝ 涼こゝ 除先  
 ちあけの歌やま味起のふらふえ 壺舟  
 大いんちまのよゝなれくともせ 万水

はまのよゝあゝあやあゝんや 雨柳  
 石舟や繪師のいとちの朝もく 乙調  
 ちわのせあ言やまのふら月 志由  
 そよゝ 栞のまゝ 一 年の内 長園  
 かゝるまゝのよゝなれくともせ 李青  
 ようちいしき 嘆きの栞 一 子 壺舟  
 ちわのまゝよゝあゝあゝのそら信の 可成  
 栞のよかや栞のよかよ 一 子 壺



